

おおいずみ

大泉学園地区都市計画道路立体交差工事

受賞機関 都市基盤整備公団東京支社設計部市街地土木課
東京都練馬区都市整備部再開発担当課

はじめに

西武池袋線大泉学園駅前地区は、練馬区西部地域の生活・交通の拠点となっている。しかし、同地区では従来、交通量の多さに加え、折れ曲がった道路や踏切の影響で、慢性的な交通渋滞が発生し、深刻な問題となっていた。

そのような状況を踏まえ、都市機能の充実を図るため第一種市街地再開発事業により、道路線形を直線的とし、かつ西武池袋線交差部をアンダーパス方式による立体交差となる都市計画道路の整備工事を実施した。

事業の概要

事業名：大泉学園駅前地区第一種市街地再開発事業

工事路線名：都市計画道路補助第135号線

(練馬区道)

幅員：17m(一般部 歩道2m+車道9m+側道6m)

延長：約300m

立体交差部：BOX方式RC構造

(W21.05m×H7.75m×L47.00m)

車道部有効幅員 9m

地下通路部有効幅員 3.1m、5.25m

工事期間：平成11年度～平成13年度

事業の特徴

(1) 代替道路・歩道の確保

現状の交通量を処理できる代替道路を確保する必要から、西武鉄道㈱と協議を行い、大泉学園駅ホームの西側部分を約20m削り取った上で、仮の踏切を設置するとともに、従来の踏切部には仮の横断歩道橋を設置の後、本工事に着手した。駅前地区という地区特性を踏まえ、工事進捗に応じた道路切替、歩行者等の安全対策等を立案し交通動線確保を図った。

(2) 都市景観への配慮

美しい街並み形成のため、学識経験者、地権者、練馬区、都市公団からなる景観検討委員会を設置し、事業地区全体の調和を図ったデザインとした。



地下通路部入口



事業前(鉄道交差部の踏切) 事業後(都市計画道路の立体交差化)

また、連絡通路の壁面デザイン等を全体的に明るいうとんとし、地下道の暗いイメージの解消を図った。

(3) 事業実施による効果

従来の「開かずの踏切」(最大遮断時間約52分/時間)の解消により、大泉学園駅周辺の生活、交通機能が大幅に改善され、環境改善及び公共サービスの向上にも大いに寄与した。

おわりに

昭和56年の計画策定以来20年の長きにわたり、練馬区との連携のもと、西武鉄道㈱の協力を得て、長年の整備課題であった立体交差工事が完成し、平成13年9月23日供用開始された。

当地区の再開発事業の全体完成は来年3月の予定であるが、今後とも地域に求められる安全・安心なまちづくりに貢献する都市基盤の整備に努めていきたい。

受賞賛助会員 ㈱鴻池組東京本店、戸田建設㈱東京支店、パシフィックコンサルタンツ㈱